

7月10日伊能忠敬吉岡上陸の日

7月10日（旧暦5月19日）は、伊能忠敬が今の福島町吉岡に上陸した日です。伊能忠敬が、福島町でどのような調査を行ったのかを紹介します。

第一次蝦夷地測量 福島町での道のり

寛政12年（一八〇〇年）、伊能忠敬測量隊は第一次蝦夷地測量を開始します。江戸千住宿を出発し、奥州街道を北上。三厩（青森県）から津軽海峡をこえ、吉岡に上陸しました。北海道南海岸を計測しながら、根室の先にある西別（別海町）まで進みますが、冬が迫っていたために、そこから折り返して同じ道を測量しながら帰路につきます。帰りは、松前まで測量を行いました。

では、福島町ではどんな測量を行ったのでしょうか。『忠敬先生日記』と千葉県香取市伊能忠敬記念館所蔵の下図から、測量ルートを予測することが出来ます。

まず、『忠敬先生日記』をもとに、福島町内の測量隊の行程（往路）をまとめてみました。

◎ 6月11日（旧暦閏4月19日）

江戸を出立。三厩では、天気が悪く船を出すことが出来ず、9日間も風待ちをしました。

◎ 7月10日（旧暦5月19日）

三厩から函館を目指します。しかし、東風が強いために、福島町の吉岡川に上陸しました。この日は、吉岡に一泊しました。

◎ 7月11日（旧暦5月20日）

風向きが変わらないので、陸路で函館を目指すことにしました。一里余（半）測量し、昼12時頃福島へ到着。一泊します。

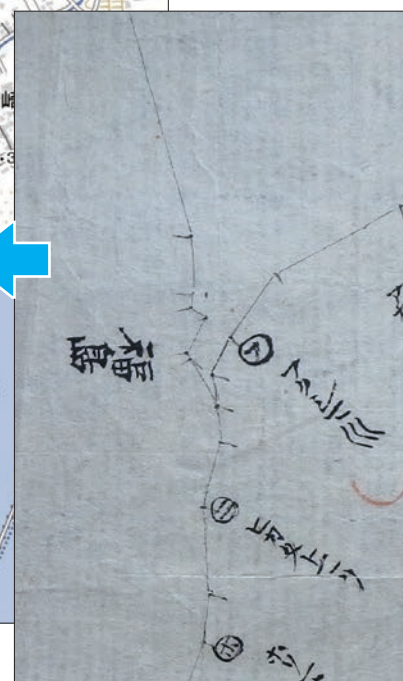
◎ 7月12日（旧暦5月21日）

福島から、四十八瀬という小川（福島町千軒）を数十度渡り、木古内へ。木古内で宿泊し夜測量します。…函館へ…

香取市伊能忠敬記念館所蔵下図(国宝)▼



▲福島町内での伊能の測量ルート概念図
(国土地理院地図に加筆して作成)



伊能忠敬は地図を作るための下図を作りました。下図をみると、吉岡から海岸伝いに豊浜・宮歌・白符・日向を測量し、福島大神宮例大祭で山車が通る神社前の坂道を登り、横綱記念館の辺り（旧役場前通り）で左手に降りる道を測量していることがわかります。そして、横綱街道商店街通りを役場方面に道なりに測量し、旧吉田

橋あたりで福島川を渡り、福島交番の付近から福島川に沿って福島峠方面へ進み、兵舞林道へ入ります。四十八瀬の小川を何度も渡ったあとは、私達が殿様街道と呼んでいる峠をこえて知内へと続きます。皆さんも、7月10日は伊能忠敬の歩いた歴史の道を辿ってみると楽しいかもしれません。